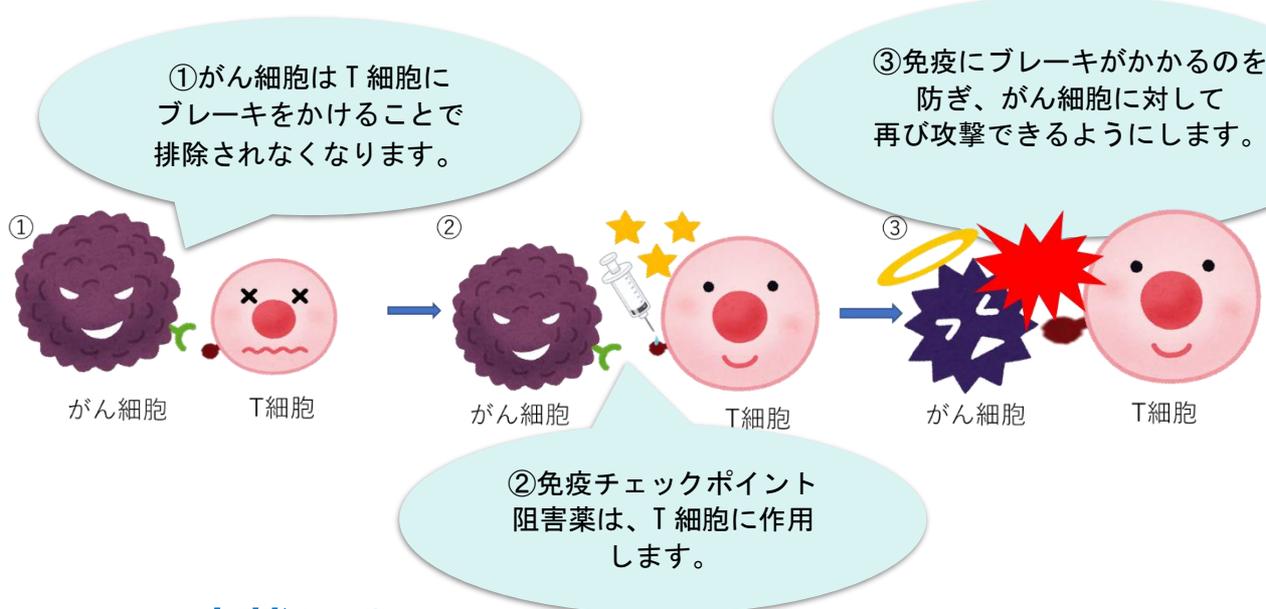


ここで少し、前のページで示した免疫チェックポイント阻害薬について簡単に説明させていただきます。

通常、人は免疫の力でがん細胞を攻撃する仕組みがあり、その免疫細胞の1つにT細胞があります。

また、T細胞には攻撃機能が働きすぎないようにブレーキをかける働きも併せ持っています。

がん細胞にはT細胞に異物を攻撃しないよう命令を送る機能があります。



irAE の症状は？

皮膚障害、肝障害、間質性肺炎、神経・筋障害、1型糖尿病、甲状腺機能低下症、大腸炎など全身性の多様な症状が知られています。

例えば、間質性肺炎は、息苦しさ・痰の出ない空咳・発熱などの症状があり、神経・筋障害は、力が入りにくい・筋肉痛・胸の痛みなどの症状があります。

また、甲状腺機能低下症であれば、だるい・疲れやすい・むくみ・脱力感などの症状があります。すべての症状が投与された方全員に起こるとも限りません。

そのため、早めに気づき対処することがとても重要となります。

免疫関連有害事象の発症時期については様々な報告がありますが、投与後数週間から投与終了の約1年後など個人差があります。

そのため、現在免疫チェックポイント阻害薬を現在投与していなくても、いつもと違う症状に気がついた時・感じた時には、医師・看護師・薬剤師へ早めの相談または受診をお願いします。

《著者紹介》

東海大学医学部付属病院薬剤科

肝臓病教室担当

永山佳奈、名須川茉莉乃

